

創刊10周年・記念(かつ反省)特別連載

character:A2 graphics
screenplay:ISHI+TOKO

ぼーだーすふぁっしょん1998

「スノボ」でいいじゃないか。

スノーボード、と正しく呼ばなかったっていい。

マーケットがマスになれば、「薄く」になってしまうのはしかたがない。

ソウル(え?)やスピリット(ん?)が薄くなるのはしかたが……、

いや、そんなものは最初から無かった。あったとしても幻想だったのだ。

ダサイ格好をしたわらは、リフトの親父に「ソリ遊びは、子供とこ

でやってくれ」とコースを追われた。それが80年代の現実だったのだ。

あのころのわらは、スノーボードが「スノボ」になることを祈っていた。

——「スノボ」でいいじゃないか。

MASSは無自覚で、COREは意識過剰。

どちらも、滑稽なことにはかわりはない。——大切なことはひとつ、

進化はいつも、肯定されたMASSやCOREのなかから生まれること、だ。

バンビーほく●

(リフトに偶然乗り合わせた親父を見て大ショック)

リーマンおとーさん● ※01

あ、おんなじジャケットですね、

バンビー●ど、どこで買いましたん?

リーマン●(照れて)や、うちのやつがね、

バンビー●どこでえ!? ※02

リーマン●(いよいよ照れて)や、コグマでね、

バンビー●バ、パチモンでっかっ!? ※03

リーマン●え? パチモンでとったんじゃないですよ、コグマ、

バンビー●すんまへん(と強引にリーマン氏のジャケットの

ネックタグを裏返し。)バックがああっ! ※05

リーマン●(驚いて)な、なんですかん?

バンビー●…………(打ちひしがれて無言)、

リーマン●…………(不気味さと気まずさで無言)。

this story is a fiction, based on a true story.

※01→大ショック

●そのカリフォルニアブランドのジャケットが限定100着のスペシャルカラーのレアモノであると雑誌で読み、原宿じゅうの店を回るも在庫なし、インターネット通販でやっと手に入れ、昨日DHLで届いた自慢のジャケットを、ダサイ親父が着ていたので大ショック。ちなみに、販売価格が280ドルで、為替が133円だったため、約3万7千円の出費だった。

※02→うちのやつ

●正確には、「ほくの女房が買ってくれたんです」。妻は「9800円もしたんだからねえ」と言ったのだった。靴だが、うちのやつ、という呼び方は、妻に対する愛情が比較のおおとき多用される傾向がある。

※03→コグマ

●「こーたらんかえトコグマ」というキャッチフレーズで有名なディスカウントストア(仮称)。

ボディボード、マウンテンバイク、インラインスケートなどの前例が語るとおり、用具がディスカウントストアに並ぶことは、そのスポーツがすでにメジャーであると言うにやぶさかではないことを示している。

※04→パチモン

●にせグッチとかにせエルメスとか、ようするに二セモノを示す関西弁。「おまえパチモンつかまされてどないするねん」というような用例がある。

※05→バック

●正しくはバックもん。パチモンとは違い本物だが、事情により正規の販売ルートを経ずディスカウントストア等に流れ安価で販売される商品をいう。この場合、昨年末に資金繰り悪化により倒産した某ショップの当該ジャケットをふくむ在庫を、コグマが現金で一括仕入れしたものである。



《ニット帽》

●渋谷宇田川町のストリート系ショップで買ったビーニー。似たようなモノをディスカウントショップでは「ニット帽」とうたって売っており、ビーニーのおおむね半値以下。化繊製のビーニーより高品質だったりする。

《ゴーグル》

●もちろんゴーグルはSPY。やっぱことしはSPYっしょー。はずせないっしょー。

《グローブ》

●ストリート系雑誌のモデルを真似て、グローブ、ジャケット、パンツともストライプがタイトなスケート系カリフォルニアブランドで決めた。

《バスケース》

●スノースタイル誌オリジナルのバスケース1900円(送料800円)。バスケースはポケットに仕舞わないとピギナーっぽいのだが、BOON誌にそう書いてなかったためツメが甘い。

《ブーツ》

●VANSのブーツとスイッチのステップイン・バインディング。先シーズン、彼女が初めて部屋に来たときテレビCMが流れていて、印象に残っていた。

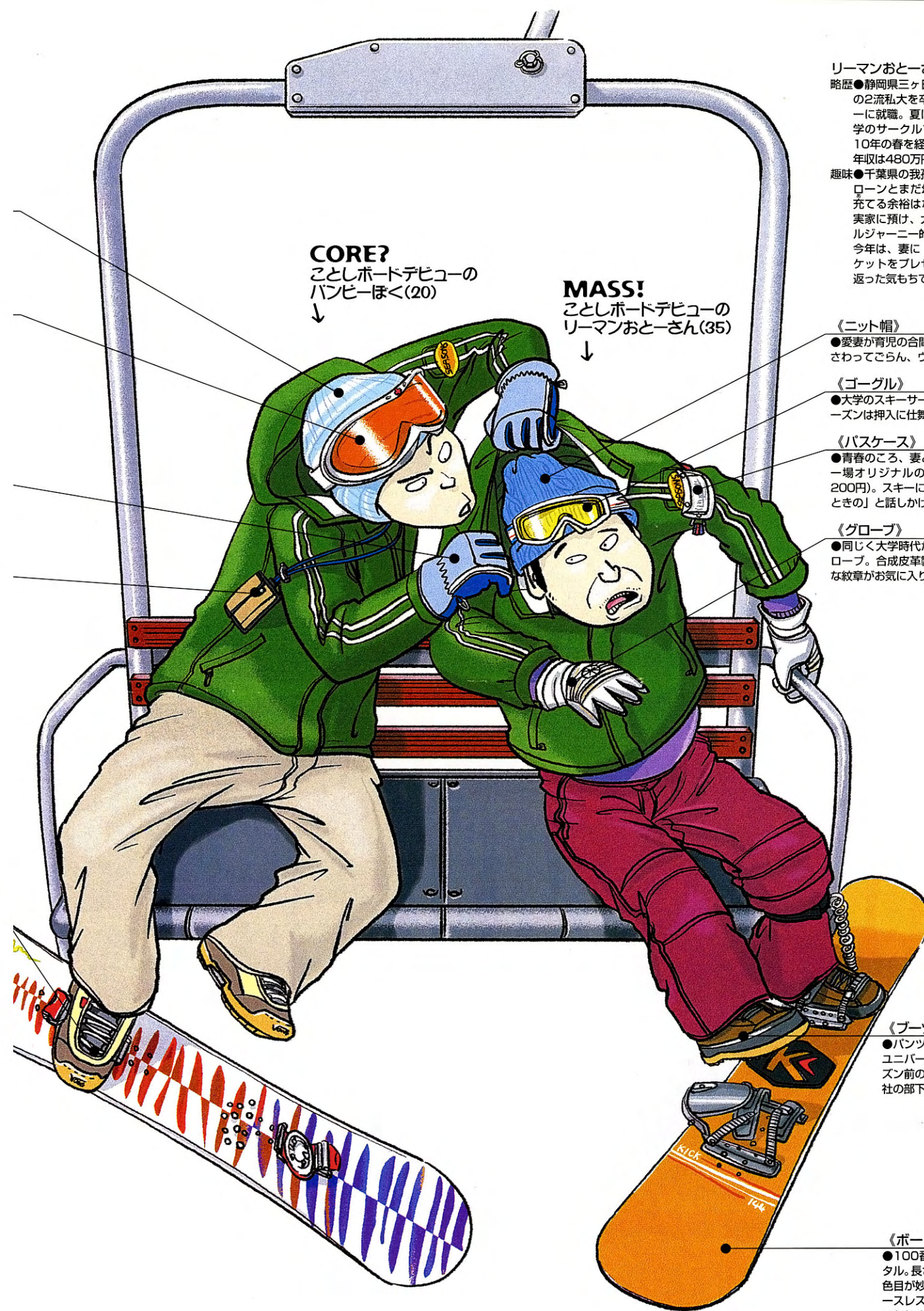
《ボード》

●リブテックのジェイミー156キャッツ。COOL TRANCEだったかBOONだったか、ジェイミーのインタビューが乗っていて、ライフスタイルがクールでアートだと思った。

バンビーほく(20)

略歴●大阪府四條畷市生まれ。一浪を経て東京の2流私大に合格。土建屋を営む実家からの月20万円の仕送りで世田谷区桜のワンルームマンションに住む。

趣味●Gショック集め、インターネットでエッチ画像集め、下手なスケートボード……。自宅DJセットも所有し、彼女を招いてはレコードを回すが、彼女(註:中ブス)は「カラオケのほうが楽しいのに」と思っている。念願のスノボを始めようと、親父に買ったダイナースの家族カードで、道具とウェア一式を揃える。



CORE?

ことしボードデビューのバンビーほく(20)

MASS!

ことしボードデビューのリーマンおとーさん(35)

リーマンおとーさん(35)

略歴●静岡県三ヶ日の兼業農家生まれ。東京の2流私大を卒業後、中堅の食品メーカーに就職。夏はテニス、冬はスキーの大学のサークルで知り合った現在の妻と、10年の春を経て結婚。2児あり。税込み年収は480万円。

趣味●千葉県の子孫に買ったマンションのローンとまだ幼い2児の養育費で趣味に充てる余裕はないが、年に一度、2児を実家に預け、大学時代へのセンチメンタルジャーニー的気分を妻とスキーに行く。今年、妻に「ボーダーみたいな」ジャケットをプレゼントされ、おもいきり若返った気もちでボードに挑戦。

《ニット帽》

●愛妻が育児の合間に編んでくれたニット帽。さわってごらん、ウールだよ。

《ゴーグル》

●大学のスキーサークル時代から愛用、オフシーズンは押入に仕舞ってあるスキーゴーグル。

《バスケース》

●青春のころ、妻とよく行った斑尾高原スキー場オリジナルの腕章型バスケース(当時200円)。スキーに行く前、妻に「ほら、あのときの」と話しかけるのも恒例になった。

《グローブ》

●同じく大学時代から愛用しているスキーグローブ。合成皮革製で、甲部につく誇らしいな紋章がお気に入り。

《ブーツ》

●パンツは2シーズン前のバートンユニバース。ブーツも同じく2シーズン前のモロー。ボーダーである会社の部下に借りた。

《ボード》

●100番100番のダスキンでレンタル。長さやブランドは選べないが、色が妙に揃い、なぜかまだきべーすレス・バインディングがついていたりする。